

# FIG2012 ローマ大会

西 修二郎

FIG2012 ローマ大会は、5月6日～10日の日程でローマの Cavalieri ホテルで開催された。約 100 ヶ国、1500 名の参加者があった。FIG の大会は毎年開かれ、世界の測量関係者が 1000 人以上集まる国際会議である。



ローマ大会の開かれた Cavalieri ホテル



大会会場入口で

#### 1) スペシャルセッション

今回の会議で、日本測量者連盟は FIG に加盟して以来初めて特別代表団を派遣し、スペシャルセッションを開催した。これは東日本大震災という未曾有の経験に際して、日本の測量界がどのように対応したか、日本の geospacial 技術が地震をどのようにとらえたかを世界に知ってもらうためのものである。このスペシャルセッション開催の話は 1 年前の FIG2011 マラケシュ大会に遡る。各国の代表者が集まるプレジデントミーティングの席で東日本大震災への FIG から頂いたお見舞いに対してお礼を述べた際、TEO CheeHai FIG 会長から日本の地震、ニュージーランドの地震、オーストラリアの洪水等大きな災害が頻発している。これらの災害に測量はどう対応したかを考えるセッションを考えてもいいのではないかという話があった。昨年 12 月にローマ大会のアブストラクト募集の際、FIG 会長にこの話を確認したところ、アブストラクト提出状況を見て判断したいということだった。村井日本測量者連盟会長に話したところ、東日本大震災だけのスペシャルセッションを設けてくれるなら自分も発表するという。FIG 会長と Markku Villikka FIG 事務局長にかけあったところ、今回日本だけのスペシャルセッションを開催することが決まった。後は発表者の確保である。国土地理院にお願いして、永山防災企画官（当時）、と山際測地技術調整官を派遣して頂くことができた。日本土地家屋調査士連合会から南城さん、パスコからは吉川さん、あと村井会長と測量協会の平田さんの 6 名にお願いした。発表分野も国の対応から測地、リモートセンシング、GIS、地籍と測量全般をカバーすることができた。

最終的なスペシャルセッションの発表内容は以下の通りである。

・**Shunji Murai (Japan):**

Lessons from East Japan Earthquake and Tsunami

・**Toru Nagayama, Kazuo Inaba, Tamotsu Hayashi and Hiroyuki Nakai (Japan):**

How the National Mapping Organization of Japan Responded to the Great East Japan Earthquake?

・**Yoshikawa Kazuo, Okajima Yuuki and Takagishi Susumu (Japan):**

Disaster Monitoring Using Remote Sensing for the Great East Japan Earthquake

・**Atsushi Yamagiwa, Yohei Hiyama, Toshihiro Yahagi, Hiroshi Yarai and Tetsuro Imakiire (Japan):**

Revision of the Results of Control Points After the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake and Mr. **Yuki Kuroishi**

・**Koichi Hirata (Japan):**

Activity of the GIS Volunteer in the East Japan Great Earthquake Disaster

・**Ichizo Sekine and Masatake Nanjo (Japan):**

Readjustment of the Cadastral Map in the East Japan Earthquake Disaster Area

スペシャルセッションの発表には、FIG 会長や ISPRS 会長、IAG 国際測地学協会会長も顔を見せるなど、50 人程度はいる会場は立ち見席も出るほどの盛況であった。日本測量者連盟が FIG に加盟して以来初めての日本のプレゼンスの場となった。



スペシャルセッション会場の様子

村井俊治日本測量者連盟会長

永山透国土地理院北海道地方測量部長





吉川和男 パスコ応用技術一課長



山際敦史 国土地理院測地技術調整官



平田更一 日本大学非常勤講師



南城正剛 日本土地家屋調査士会連合会委員



会場には FIG 会長、ISPRS 会長の顔も

## 2) 総会

総会は FIG の最高議決機関である。FIG の会長、副会長、委員長人事や、メンバー会員の了承等が行われる。今回の大会では副会長とコミッション委員長の人事があった。人事は大会の前半で立候補演説を行い、後半の総会で投票が行われる。副会長人事は基本的には 4 年毎の大会（前回は 2011 年のシドニー大会）で決められるが、今回はその補充で 3 名の立候補の中から 2 名を選出するものである。結果は、イタリアの Bruno Razza 氏と中国の Pengfei Cheng 氏が当選した。コミッション委員長は、第 1 と第 7、第 8 分科会以外は立候補がそれぞれ 1 名しかなく、無投票で決まり、第 1 はニュージーランドの Coutts 氏、第 7 はオーストリアの Schennach さん、第 8 は香港の Ming 氏に決まった。新しい委員長は以下の通りである。

Commission 1: Mr. Brian J. Coutts, NZIS, New Zealand

Commission 2: Ms. Liza Groenendijk, GIN, Netherlands

Commission 3: Mr. Enrico Rispoli, CNGeGL, Italy -

Commission 4: Ms. Angela Kesiena Etuonovbe, NIS, Nigeria

Commission 5: Prof. Volker Schwieger, DVW, Germany

Commission 6: Dr. Ivo Milev, USLMB, Bulgaria

Commission 7: Ms. Gerda Schennach, OVG, Austria

Commission 8: Mr. Raymond Chan Yuk Ming, HKIS, Hong Kong SAR, China

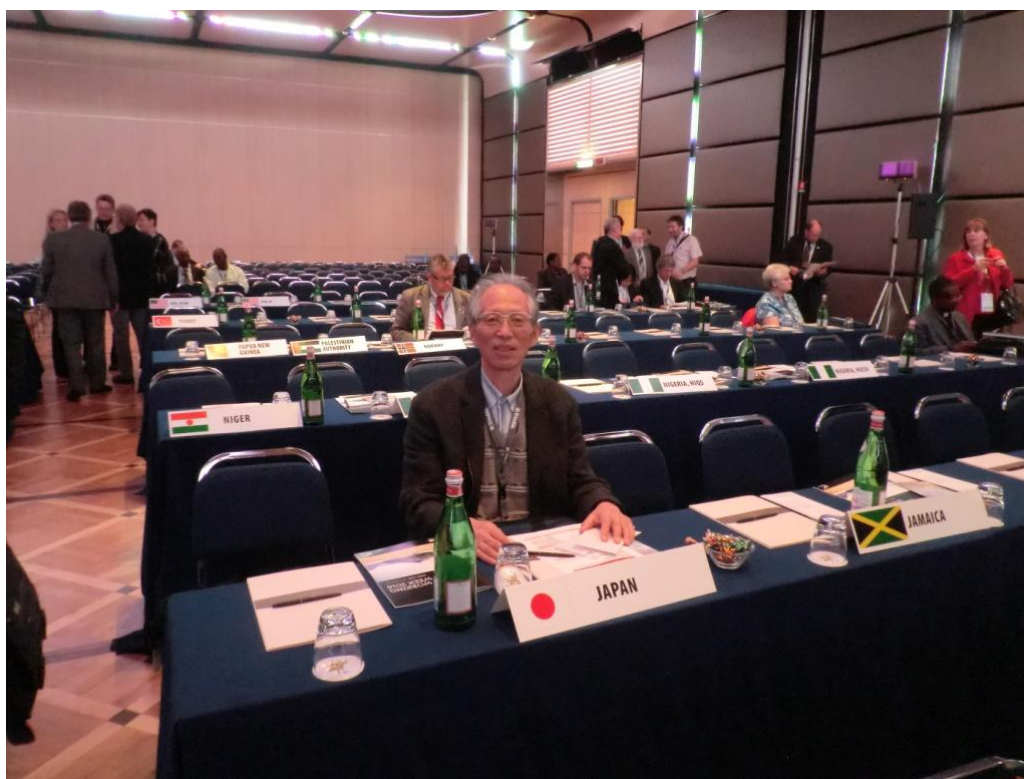
Commission 9: Prof. Liao Jinping (Patrick), CIREA, China PR –

将来は日本の大学の准教授クラスの人で委員長の立候補者が出ることを期待したい。

人事以外で投票が行われたのは、FIG 大会開催地の決定である。今回は 2015 年と 2016 年の開催地の投票が行われた。

2015 年の開催地の立候補地は、ブルガリヤのソフィア、ネパールのカトマンズ、ルーマニアのブカレスト 3 つであった。投票の結果、ブルガリヤのソフィアに決まった。2016 年の開催地の立候補地は、ニュージーランドのクライストチャーチ、ルーマニアのブカレストで、結果はニュージーランドのクライストチャーチであった。

選挙以外の話題は、ワーキンググループで議論されてきた投票権の問題があった。投票権を 1 ヶ国 1 票とするか正会員毎に 1 票とするかあるいは正会員の支払う会費を考慮した投票権とするかの議論である。国内の会員数が多ければ会費を多く支払うが、中国の様に会費を減額されている場合もあり難しい。結論は出ず引き続き検討ということになった。



代表団席での村井会長



総会での FIG 会長挨拶



総会後半での投票（前方のトロフィカップの中に投票用紙を入れる）



総会後半の代表団席

### 3) 全体集会

プレナリーセッション（全体集会）は、7日、8日、9日と3回開かれた。毎回テーマを変え、基調演説が行われた。

7日に行われた全体集会1のテーマは、管理知識（Knowledge to Manage）であった。自発的なガイドラインと責任ある行動によって、この変化し壊れやすい環境を管理し、保護することに挑戦するという内容であった。

基調演説者：Stefania Prestigiacomo 環境保護省長官、Franco Maggio 国土庁長官、DVW President Karl-Friedrich Thöne. ドイツ

Karl-Friedrich Thöne の基調演説は、環境問題の意思決定にインスパイアに代表される3DのGISが有用であるということであった。

8日の全体集会2では、ISPRS 会長の Orhan Altan,が、災害の軽減、救助、復興、管理に geospatial technologies が有効という基調演説を行った。Altan は村井会長も旧知ということで演説に村井会長のスライドが提供されていた。

9日の全体集会3のテーマは、文化と伝統の保護ということで、Mr. Mario Resca イタリア文化庁 長官の文化遺産の保護に3D測量技術が有効という話。





全体集会の様子

#### 4) 技術講演会

10の分科会毎に平行して技術講演会が開催された。筆者の覗いた測地関係の講演会だけでも様々なテーマの発表があった。発表の例をあげると、IGSの新たな役割、ニュージーランド全国網平均、オーストラリア北部測地原点、米国測地網の歪、香港の測地網、4次元測地網（ニュージーランド）、米国の水準原点の見直し、GRACEによる重力モデル、アイルランドの広域ネットワークRTK、米国NGSのリアルタイムGPSサービス、PPPの現状といったように最新の測地学に関する発表も含まれていた。またイタリアらしく、レーザースキャナーで古代遺跡調査の話もあり、楽しめた。各分科会は、測量のすべての分野をカバーしているので、参加されれば必ず自分の興味のある発表に出会えるので、是非JFSの関係者の皆さんも1度是非参加されることをお勧めする。



技術講演会の様子(I)



技術講演会の様子(II)

## 5) 展示会

会場の入り口周辺では、展示会が開かれていた。トプコン等の日本企業は撤退し、トリニブル、ESRI 等の FIG 有カスポンサー企業等による展示会が、小規模に開催されていた。



展示会の様子

## (6) ソーシャルイベント

大会中には、参加者の懇親のために 7 日のウエルカムレセプションや 8 日の **Italian Evening**, 9 日の **conference dinner** が用意されていた。ウエルカムレセプションはオープニングセレモニーと兼ねて、**Parco della Musica** という劇場でコンサート付で開催された。**Italian Evening** は、ホテル内で開催されたイタリア音楽付きの夕食会である。**conference dinner** は、**Villa Miani** というホテル近くのローマが一望できる会場を借り切った夕食会である。



ウエルカムレセプション会場まえでの参加者



Italian Evening 会場で同席したケニアとイスラエルの代表団



conference dinner で同席したルーマニアとナイジェリアの代表団

(7) 最後に

今回の大会は、日本測量者連盟が初めて多数の代表団を派遣出来た大会であった。震災が契機になったということはあるが、今後も日本のプレゼンスを高めるような活動を続けていきたい。参加に協力して頂いた村井会長はじめ国土地理院の永山さん山際さん、日本土地家屋調査士連合会の南城さん、パスコの吉川さん、日本大学の平田さんにあらためて感謝申し上げます。

最終日帰りの飛行機の出発時間が午後だったので、午前中ローマの下町と言われているテベレ川沿いの地区を街歩きした。ローマは以前個人旅行で来たことがあり、3度目であるが、何度歩いても見あきることがない街である。



ホテルのあるマリオ山から眺めたローマ市内（中央に見えるのがバチカンのドーム）



会場のホテルテラスでの朝食（村井会長、筆者、永山さん、山際さん）